１年

内容解説資料

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
4月	**朝のリレー** **２時間** ◎音声の働きや仕組みについて、理解を深めることができる。（知・技(1)ア） ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 （学びに向かう力、人間性等）	1-2	1 詩を音読する。 ・詩に登場する国や街がどんなところか、また、そこで、どんな人が何をしているのか、情景を想像しながら音読する。 2 詩を読んで想像したことや、好きな言葉や表現を交流する。 ・詩を読んで想像した情景や、好きな言葉や表現などをグループで交流し、どのように音読すれば、詩のよさが伝わるかを相談する。 3 詩の特徴を生かして音読する。 ・詩のよさが伝わるように工夫して音読する。 ◇グループで分担し、リレー形式で読ませてもよい。	【知・技】音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。（(1)ア） →声の強弱、間の取り方、言葉の調子、声の高さを工夫しながら音読している。 【態】音声の働きや仕組みについて進んで理解を深め、小学校での学習を生かして音読しようとしている。
言葉に出会うために				
4月	**言葉に出会うために** **声を届ける　野原はうたう** **書き留める** **言葉を調べる** **続けてみよう** **３時間** ◎音声の働きや仕組みについて、理解を深めることができる。（知・技(1)ア） ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 （学びに向かう力、人間性等）	1	「言葉に出会うために」を読み、目次や「学習の見通しをもとう」を使って、中学校での国語学習の見通しをもつ。 1 国語で何を学ぶのかを考える。 ・「言葉に出会うために」を読み、国語を学ぶ意味や言葉の価値を考える。 ◇P14のイラストなどを参考に、小学校での学習を振り返るとともに、中学校の学習への期待感を高める。 ◇今の考えを書き留めさせ、１年後にこの教材に立ち返ることで自己の変容を感じさせたい。 2 音読・発表のしかたを理解する。 ・教科書を読み、音読・発表のしかたについて理解する。 →二次元コード「発表のしかた」 →P33「言葉１　音声の仕組みや働き」 3「野原はうたう」の二つの詩を音読する。 ・詩に登場する生き物になったつもりで、情景や心情を想像しながら音読する。 ・詩に出てくる語句の意味に注意する。 ◇気に入ったところに印を付けさせたり、線を引かせたりしながら読ませる。 ◇声の強弱や間の取り方を変えたり、声の大きさや高さなど、言葉の調子を工夫したりすることで、作品から受ける印象が変わることに気づかせる。 ◇詩人・工藤直子さんの「野原はうたう」に込めた思いを紹介するとよい。 →二次元コード「作者インタビュー」	【知・技】音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。（(1)ア） →聞き手を意識して声の強弱、間の取り方、言葉の調子、声の大きさや高さを工夫している。 →情景や心情を表す表現に応じて、音読のしかたを工夫している。 【態】音声の働きや仕組みについて進んで理解を深め、小学校での学習を生かして音読しようとしている。
	◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使うことができる。（知・技(2)イ） ◎読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解することができる。（知・技(3)オ） ◎目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ◎言葉がもつ価値に気づくとと	2-3	4 P18「書き留める」を読み、ノートの書き方の工夫を理解する。 ◇小学校のときのノートの取り方と比較させる。 5 P19「言葉を調べる」を読み、辞典・事典で言葉を調べる方法を理解する。 ・辞典・事典類の種類と特徴を確認し、何を調べるときに役立つかを理解する。 →P274「語彙ブック」（辞典を活用して言葉を広げよう） 6 P20「続けてみよう」を読み、「言葉の手帳」を作る。 ・印象に残った言葉や気になった言葉を、日付や感想とともに書き留めていくことを確認する。 ・最初の言葉を書き込み、その言葉との出会いや意味、使い方などを書いて、友達と交流させる。	【知・技】 ・比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。（(2)イ） →ノートの書き方の工夫を理解し、線や矢印で情報を整理している。 ・読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。（(3)オ） →これまでに読んだ本などを基に、印象に残った言葉を書き留めている。 【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えた

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	もに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 （学びに向かう力、人間性等） ★本や資料から文章や図表などを引用して説明したり記録したりするなど、事実やそれを基に考えたことを書く。（思・判・表B(2)ア）		◇線や矢印を使って類義語や対義語を書かせたり、用例を書かせたりしてもよい。 7 学習を振り返る。 ・音読や発表をするとき、発表を聞くときにはどんなことに気をつけるとよいか、気づいたことをまとめる。 ・友達とノートの交流をし、工夫できていることと改善点について話し合う。	いことを明確にしている。（B(1)ア） →日常生活やこれまでに読んだ本の中から題材を決め、情報を整理して「言葉の手帳」に書き込んでいる。 【態】進んで日常生活の中から題材を決め、これまでの学習を生かして「言葉の手帳」を作ろうとしている。
1　学びをひらく				
4月	**はじまりの風** **４時間** ◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使うことができる。（知・技(2)イ） ◎場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えることができる。（思・判・表C(1)イ） ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 （学びに向かう力、人間性等） ★物語を読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする。 （思・判・表C(2)イ）	1-2

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	もに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 （学びに向かう力、人間性等）		こともできる。	学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。
5月	［聞く］ **情報を聞き取り、要点を伝える** **１時間** ◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使うことができる。（知・技(2)イ） ◎目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討することができる。（思・判・表A(1)ア） ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 （学びに向かう力、人間性等） ★紹介や報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問したり意見などを述べたりする。（思・判・表A(2)ア）	1	リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 情報を的確に聞き取り、要点を伝える必要がある場面を挙げる。 ◇自分の体験などを基に、何が必要な情報かを判断しながら聞き取り、情報を整理して伝えることの大切さを理解させる。 2 二次元コードの音声を聞き、必要な情報をメモに取る。（やってみよう①） →二次元コード「田村さんと部長の会話」 3 ①のメモを基に、相手に伝える内容を整理する。（やってみよう②） ・伝える必要がある情報は、線を引いたり、丸で囲んだりして整理する。 4 情報を的確に聞き取るためのポイントを確かめる。 ・「情報を的確に聞き取るために」で、情報を聞き取るときと、聞き取った情報を伝えるときのポイントを確認する。 5 学習を振り返る。 ・情報を的確に聞き取ったり、聞き取った情報を伝えたりするときのポイントについて理解することができたか、確かめる。	【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。（(2)イ） →5W1Hに注意して、キーワードとなる言葉を書き留め、番号や記号を用いて整理している。 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討している。（A(1)ア） →日常の話題について、聞き取った情報を整理し、伝える内容を考えている。 【態】聞き取った情報を進んで整理し、学習課題に沿って、要点を伝えようとしている。
5月	**言葉１　音声の仕組みや働き** **１時間** ◎音声の働きや仕組みについて、理解を深めることができる。（知・技(1)ア） ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 （学びに向かう力、人間性等）	1	1 導入の課題に取り組み、音声の仕組みや働きについて関心をもつ。 →P16「声を届ける」 2 母音と子音について理解する。 ・「母音と子音」を読み、日本語の音声の仕組みや、はっきりと発音する方法を確かめる。 ・「日本語と英語のちがい」を読み、言語によって発音の仕組みに違いがあることを理解する。 3 音の高さ・強さについて理解する。 ・アクセントやイントネーションによって、言葉の意味や調子が変わることや、伝えたいことを強調する発音のしかたを理解する。 4 学習を振り返る。 ・伝えたいことを音声で正確に届けるためには、どんな工夫ができるかを確かめる。	【知・技】音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。（(1)ア） →日本語の音声が母音と子音で構成されることや、アクセント・イントネーションによって意味や調子が変化することなどを理解している。 【態】声の出し方による伝わり方の違いを、試行錯誤しながら確認し、それらを生かして音声の働きや仕組みについて理解を深めようとしている。
5月	**話の構成を工夫しよう** **一枚の写真をもとにスピーチをする** **４時間** ◎音声の働きや仕組みについて、理解を深めることができる。（知・技(1)ア） ◎自分の考えや根拠が明確になるように、話の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などに注意して、話の構成を考えることができる。（思・判・表A(1)イ）	1 2-3	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 スピーチの材料を集める。 ・「みんなの知らない私の一面」について、思いついたことを書き出す。 ・何を伝えるかを決め、写真を用意する。 →二次元コード「表現テーマ例集」 2 話の構成を考え、練習する。 ・聞き手にわかりやすく伝えるために、話す順序や表現のしかたを工夫する。 ◇1分を目安に内容を整理させる。 ◇構成案を基に、スピーチメモを作らせる。 ・友達どうしで聞き合ったり、録画を見たりして、	【知・技】音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。（(1)ア） →声の大きさ、話す速さ、間の取り方などに注意しながらスピーチをしている。 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、自分の考えや根拠が明確になるように、話の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などに注意して、話の構成を考えている。（A(1)イ） →聞き手を想定し、伝えたいことが明確になるように、構成を考え、話す

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	◎相手の反応を踏まえながら、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫することができる。(思・判・表A(1)ウ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 (学びに向かう力、人間性等) ★紹介など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問したり意見などを述べたりする。(思・判・表A(2)ア)	4	互いの改善点を見つける。 →P35カギ「わかりやすい話の構成を考える」 →P280資「『学びのカギ』一覧」(話す・聞く) →二次元コード「学びの地図」 →P341資「ICT活用のヒント」 →P37言の葉 ◇伝えたいことを明確にし、構成や表現を工夫させる。また、声の大きさや速さ、間の取り方などに注意させる。 3 スピーチの会を開く。 ・順番を決め、スピーチの会を開く。 ・聞き手の反応を踏まえ、声の大きさや速さ、間の取り方などを意識して話す。 →二次元コード「スピーチをする」 →P16「声を届ける」 ◇伝えたいことを届けようとする姿勢を大切にさせたい。 →P37「達人からのひと言」 4 学習を振り返る。 ・スピーチについての感想を交流する。 ・内容や話し方について、よいと思ったことを伝え合う。 ・声の大きさや間の取り方などを、どのように工夫したか、自分の言葉でまとめる。 ・自分の伝えたいことが、聞き手にはっきりとわかりやすく伝わるように、スピーチの構成や表現で工夫した点は何か、自分の言葉でまとめる。 ・今回学んだことの中で、次にスピーチをするときに生かしたいことを挙げる。 ◇P34「生かす」を読み、学んだことを今後どのように生かしていきたいかを考えさせるとよい。	順番を工夫している。 ・「話すこと・聞くこと」において、相手の反応を踏まえながら、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫している。(A(1)ウ) →聞き手の反応を見ながら、伝えたいことがわかりやすく伝わるように表現を工夫して話している。 【態】話の構成を粘り強く考え、学習の見通しをもってスピーチをしようとしている。
5月	**漢字１　漢字の組み立てと部首** **漢字に親しもう１** **１時間** ◎学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。 (知・技(1)イ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 (学びに向かう力、人間性等)	1	1 導入部分を読み、漢字の組み立てに興味をもつ。 ・漢字は、左右・上下・外側と内側などの二つの部分を組み立てたものが多いことを理解する。 2 偏旁冠脚など漢字を組み立てている部分について理解する。 3 部首について理解する。 4 漢和辞典を利用して、練習問題に取り組む。 →二次元コード「漢字一覧表」 5 P40「漢字に親しもう１」の問題に取り組む。 →二次元コード「漢字一覧表」 →P19「言葉を調べる（漢和辞典)」 →P260「小学校六年生で学習した漢字一覧」 →P308資「一年生で学習した漢字」 →P321資「一年生で学習した音訓」 ◇言葉の意味がわからないときは、国語辞典等で調べさせるとよい。 ◇P257「[練習] 小学校六年生で学習した漢字」に併せて取り組み、これまでに学習した漢字の書き取りをさせてもよい。	【知・技】学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)イ) →漢字の組み立てと部首について理解し、漢和辞典を使って調べている。 【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
２　新しい視点で				
5月	**ダイコンは大きな根？** **２時間** ◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 本文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。	【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。((2)イ) →本文中で比較がどのように使われ

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	理解を深め、それらを使うことができる。(知・技(2)イ) ◎文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握することができる。(思・判・表C(1)ア) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 (学びに向かう力、人間性等) ★説明の文章を読み、理解したことや考えたことを報告したり文章にまとめたりする。 (思・判・表C(2)ア)	2	→二次元コード「漢字の練習」 2 文章の中心となる部分を捉える。(課題1) ・筆者が「問い」を投げかけている段落と、それに対する「答え」を示している段落を見つけ、それぞれ短い言葉でまとめる。 3 段落の役割について考える。(課題2) ・この文章を構成する10の段落が、文章全体の中で、それぞれどんな役割を果たしているかを考える。 →P45カギ「段落の役割に着目する」 →P278資「『学びのカギ』一覧」(説明文) →二次元コード「学びの地図」 4 筆者の説明のしかたについて話し合う。(課題3) ・筆者の説明のしかたに注目して、この文章のわかりやすさの秘密を話し合う。 ◇題名や説明のしかた(問いと答え、比較、図など)に着目させるとよい。 5 学習を振り返る。 ・筆者は、何と何を、何のために比較しているかまとめる。 ・段落が果たす役割には、どのようなものがあったか挙げる。 ・わかりやすく説明する工夫のうち、自分が文章を書くときに使ってみたいものを一つ挙げる。	ているかを理解している。 【思・判・表】「読むこと」において、文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。(C(1)ア) →「問い」と「答え」から中心的な部分を捉え、筆者の主張を理解している。 【態】文章の中心的な部分と付加的な部分について積極的に捉え、今までの学習を生かして筆者の説明の工夫を伝え合おうとしている。
5月	**ちょっと立ち止まって** **３時間** ◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使うことができる。(知・技(2)イ) ◎文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握することができる。(思・判・表C(1)ア) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 (学びに向かう力、人間性等) ★説明の文章を読み、理解したことや考えたことを報告したり文章にまとめたりする。 (思・判・表C(2)ア)	1

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
			→P51言の葉 5 学習を振り返る。 ・筆者の主張と事例の関係を、どのような方法で整理したか挙げる。 ・文章の要旨を捉えるときには、どんな手順で進めるとよいか、自分の言葉でまとめる。 ・筆者はなぜ、「他の見方を試して」みることを勧めているのか、「ちょっと立ち止まって」という言葉を使って、一文にまとめる。	
6月	**情報整理のレッスン** **比較・分類** **１時間** ◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使うことができる。（知・技(2)イ） ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等）	1	1 学習の目的を理解する。 ・P52上段の導入の文章を読み、目的に合わせて情報を整理することの必要性を理解する。 2 情報を比較・分類する方法を確かめる。 ・①比較する（表）、②分類する（ラベリング）、③分類して比較する（ベン図）、④順序や流れを整理する（フローチャート）を確認し、情報整理の目的と、それに適した方法を理解する。 ◇図や表で整理された情報を見て気づいたことを、「比較に用いる言葉」や「順序を表す言葉」を使って発表させるとよい。 3 問題1～2に取り組む。 ◇情報を整理した後、グループで考えを交流させ、目的が達成できれば、整理のしかたや観点の立て方は多様であってよいことに気づかせたい。 4 学習を振り返る。 ・情報はどのように整理するとわかりやすくなるか、目的ごとにまとめる。 →P9「思考の地図」 →二次元コード「漢字の練習」	【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。（(2)イ） →情報の整理のしかたを理解し、情報を比較したり、分類したりしている。 【態】情報の整理のしかたについて積極的に理解を深め、学習したことを生かして練習問題に取り組もうとしている。
6月	**情報を整理して説明しよう** **発見したことをわかりやすく書く** **４時間** ◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使うことができる。（知・技(2)イ） ◎目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ◎書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えることができる。（思・判・表B(1)イ） ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等） ★本や資料から文章や図表などを引用して説明したり記録したりするなど、事実やそれを	1

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	基に考えたことを書く。(思・判・表B(2)ア)		→P56「達人からのひと言」 4 交流する。 ・友達と読み合い、内容や説明のしかたについて、わかりやすいと思った点を伝え合う。 5 学習を振り返る。 ・集めた情報を、どんな方法で整理したか、自分の言葉でまとめる。 ・どのような目的で、どのような工夫をして情報を取捨選択したか、自分の言葉でまとめる。 ・わかりやすく説明する工夫の中で、次に生かしたいことを挙げる。 ◇P54「生かす」を読み、学んだことを今後どのように生かしていきたいかを考えさせるとよい。	
6月	**言葉２** **指示する語句と接続する語句** **１時間** ◎指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めることができる。(知・技(1)エ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1	1 導入の課題に取り組み、指示する語句や接続する語句について関心をもつ。 2 指示する語句について理解する。 ・P58の表を基に、指示する語句(「こそあど言葉」)の種類を把握する。 ・例を基に、前後の文をつなぐ働きを理解する。 3 接続する語句について理解する。 ・P59-60の表を基に、接続する語句の働きによる分類について理解する。 ・例を基に、接続する語句には書き手や話し手の気持ちが反映されることを知る。 4 学習したことを日常につなぐ。 ・P60「読むことに生かす」を読み、接続する語句が、段落の関係をつかむ手がかりになることを理解する。 ◇既習の「ダイコンは大きな根？」や「ちょっと立ち止まって」の文を例に理解させるとよい。 →二次元コード「漢字の練習」	【知・技】指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めている。((1)エ) →例を基に、指示する語句と接続する語句の種類や働き、使われ方などについて理解している。 【態】今までの学習を生かして、積極的に指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めようとしている。
３　言葉に立ち止まる				
6月	**空の詩 三編** **［書く］詩の創作教室** **３時間（読②書①）** ◎事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)ウ) ◎比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使うことができる。(知・技(1)オ) ◎文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。(思・判・表C(1)エ) ◎根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ◎根拠の明確さなどについて、読み手からの助言などを踏ま	1-2	◇次の教材「言葉３　さまざまな表現技法」と併せて扱うと効果的である。 「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 三つの詩を音読する。 ・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」 2 詩について、感じたことを交流する。 ・「よさやおもしろさを感じたところ」や、「どういうことだろうと思ったところ」のような観点で、感じたことや考えたことを交流する。(課題1-①、②) ◇いずれも空の詩であることを確認させる。 3 詩の情景や表現の効果について話し合う。 ・それぞれの詩について、提示された観点から考えをもつ。(課題2-①) ・三つの詩の中で、最も印象に残った表現とその効果について、話し合う。(課題2-②) ◇友達の意見との共通点や相違点を確認させる。 ◇季節や時間（朝・昼・夜）を想像させてもよい。 4 最も印象に残った詩について発表する。(課題3) ・選んだ詩のいちばんのよさ（おもしろさ）や印象に残った表現などの観点に沿ってメモを作り、	【知・技】 ・事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)ウ) →詩の中の語句の意味を捉えながら、語感を磨き、語彙を豊かにしている。 ・比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使っている。((1)オ) →表現の技法を理解し、表現を工夫して詩を書いている。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。(C(1)エ) →詩に描かれている情景を想像し、具体的な叙述を取り上げて表現の効果を考えている。 ・「書くこと」において、根拠を明確に

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	え、自分の文章のよい点や改善点を見いだすことができる。(思・判・表B(1)オ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 (学びに向かう力、人間性等) ★詩や解説文を読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ) ★詩を創作し、感じたことや考えたことを書く。(思・判・表B(2)ウ)	3	発表する。 5 学習を振り返る。 ・詩のどの言葉や表現に着目して読み味わったか挙げる。 ・詩の情景を想像するうえで、特に効果的だと感じたのはどの表現かをまとめる。 ・詩の創作に生かしたいと思ったことを挙げる。 6 空の詩を作り、「空の詩 三編」に加える。 ・どんな空を取り上げるか考える。 ・思いや考えを書き出し、空についてのイメージを広げる。 ・「空の詩 三編」を参考に、表現を工夫して詩を書く。 →P268「語彙ブック」(情景を表す言葉) →P68「言葉３　さまざまな表現技法」 ・読み合って感想を伝え合う。 ◇P67下段「他にもある！　こんな楽しみ方」を参考に、クラスの実態に応じた活動を行うとよい。	しながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ) →自分の思いが読み手に伝わるように、言葉や表現を工夫して詩を書いている。 ・「書くこと」において、根拠の明確さなどについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。(B(1)オ) →読み手の助言から、創作した詩のよい点や改善点を理解している。 【態】詩の構成や展開、表現の効果について積極的に考え、学習の見通しをもって詩を創作しようとしている。
6月	**言葉３　さまざまな表現技法** **１時間** ◎比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使うことができる。(知・技(1)オ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 (学びに向かう力、人間性等)	1	1 導入の例を読み、表現による印象の違いを挙げる。 2 P68「比喩（たとえ)」を読み、比喩の種類による印象の違いを考える。 ・例文を基に、比喩の特徴を理解する。 ◇P70「生活に生かす」を読み、日常生活の中でも、比喩を使うことで物事を効果的に伝えることができることを伝えるとよい。 →P71「比喩で広がる言葉の世界」 3 P69「反復」「倒置」、P70「体言止め」「省略」「対句」を読み、表現技法によるリズムの違いや効果について考える。 ・例文を基にそれぞれの技法の特徴を理解する。 →二次元コード「漢字の練習」	【知・技】比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使っている。 ((1)オ) →比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法について、具体的な言葉を挙げて指摘している。 【態】比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法について、学習課題に沿って、積極的に理解を深めようとしている。
6月	**比喩で広がる言葉の世界** **２時間** ◎比喩などの表現の技法を理解し使うことができる。(知・技(1)オ) ◎文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握することができる。(思・判・表C(1)ア) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 (学びに向かう力、人間性等) ★解説の文章を読み、理解したことや考えたことを報告したり文章にまとめたりする。 (思・判・表C(2)ア)	1

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
			び、どんなときに使えるか考える。	
6月	**文法への扉１** **言葉のまとまりを考えよう** **文法１　言葉の単位** **１時間** ◎単語の類別について理解することができる。(知・技(1)エ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1	1 P75の導入や教材文を読み、言葉のまとまりについて考える。 ・例文を音読し、間を取った箇所を確認する。 →二次元コード「文法ワーク」 2 P242「文法１　言葉の単位」を読む。 →二次元コード「練習問題」 ・「文法とは」を読み、文法の定義を理解する。 ・「言葉の単位」を読み、「文章・談話」「段落」「文」「文節」「単語」の違いとそれぞれの特徴を理解する。 ・下段の練習問題に取り組み、理解したことを確認する。 ・P243「読むことに生かす」を読み、段落に着目して読むことで、説明的な文章の内容や構成が捉えやすくなることを理解する。	【知・技】単語の類別について理解している。((1)エ) →文法の必要性を知り、言葉の単位とその働きについて理解している。 【態】今までの学習を生かして、積極的に単語の類別の前提となる言葉の単位について理解しようとしている。
7月	**語彙を豊かに** **心情を表す言葉** **１時間** ◎事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)ウ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1	1 学習の目的を理解する。 ・リード文を読み、心情を的確に表現するためには、語句の量を増やす必要があることを理解する。 2 印象に残った出来事について、そのときの気持ちをひと言で表す。 3 気持ちを表す言葉を集める。 ・P76の図を参考に、似た意味の言葉を集める。 ◇国語辞典や類語辞典を活用させるとよい。 →P270「語彙ブック」(心情・行為を表す言葉) →P19「言葉を調べる」 →P9「思考の地図」 4　気持ちにぴったりの言葉を選ぶ。 ・P77の図などを参考に、集めた言葉の中から気持ちを的確に表現できる言葉を選び、文を書き換える。 →二次元コード「漢字の練習」 5 学習を振り返る。 ・言葉を集めて比べたことを通して、気づいたことを話し合う。	【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)ウ) →言葉を集め、似た意味の言葉の語感の違いに注意しながら、伝えたいことに合う的確な言葉を探している。 【態】今までの学習を生かして、積極的に事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使おうとしている。
情報×SDGs				
7月	**情報収集の達人になろう** **コラム　著作権について知ろう** **３時間（読②書①）** ◎原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使うことができる。(知・技(2)イ) ◎目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア)	1-2	リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 調べるテーマを決める。 ・SDGsの17の目標を手がかりに、疑問に思ったことや、詳しく知りたいと感じた問題を書き出す。 →二次元コード「SDGsについて考え、行動しよう」 →P282資「発想を広げる」 →二次元コード「漢字の練習」 2 図書館やウェブサイトで情報を集める。 ・P80「図書館で情報を集める」「ウェブサイトで情報を集める」を読み、それぞれの場合での情報の集め方を理解する。 ・自分が決めたテーマについて、どのように調べるのがよいかを考え、実際に情報を集める。 3 情報を読み取る。 ・資料から正しく情報を読み取る方法と、必要な情報を記録する方法を理解する。	【知・技】 ・原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) →考えを述べる際に、その考えを支える理由や事例が必要なことを理解している。 ・比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。((2)イ) →本やインターネットで調べた情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方を理解している。 【思・判・表】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいこ

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができる。 （思・判・表C(1)オ） ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 （学びに向かう力、人間性等） ★本や資料から文章や図表などを引用して説明したり記録したりするなど、事実やそれを基に考えたことを書く。（思・判・表B(2)ア） ★学校図書館などを利用し、多様な情報を得て、考えたことなどを報告したり資料にまとめたりする。（思・判・表C(2)ウ）	3	・P81の資料と記録カードの例を参考に、自分が図書館やインターネットで集めた資料から、必要な情報を探してカードに記録する。 4 行動宣言をまとめる。 ・読み取った情報を適切に引用しながら、持続可能な社会の実現に向けて、自分がどんな行動をするかをまとめる。 ・出典の示し方に注意して「参考文献」を書く。 ◇資料を引用する際には、P82の文例と「引用のルール」を参考にさせるとよい。 5 著作権について知る。 ・著作権の定義や、著作者の許可が必要ない場合について確認する。 ・P83「やってみよう」に取り組み、著作物を使用するときの留意点を確かめる。 6 学習を振り返る。 ・情報の調べ方や読み取り方について、今回学んだことを挙げる。 ・今後、どんな場面で引用や出典、著作権について学んだことを生かせそうか、グループで話し合う。	とを明確にしている。（B(1)ア） →調べたいテーマについて、本やインターネットを活用して情報を集め、整理し、伝えたいことを明らかにして書いている。 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしている。（C(1)オ） →読み取った情報を基に、自分の考えを書いている。 【態】引用のしかたや出典の示し方について積極的に理解を深め、今までの学習を生かして収集した情報を基に考えたことを書こうとしている。
いつも本はそばに				
7月	**読書を楽しむ** **１時間** ◎読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解することができる。（知・技(3)オ） ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 （学びに向かう力、人間性等）	1	1 教材文を通読し、さまざまな読書活動を知る。 ・本を読んだ後、記録をしたり、友達に紹介したりする学習活動について理解する。 2「ポップ作り」、「読書会」、「読書記録」の中から、夏休みに行う活動を選ぶ。 →P20「続けてみよう」 ◇学校や地域の状況に応じて、指導者が活動を決めてもよい。 3 活動の内容に沿って、見通しを立てる。 ・ポップの場合は、読書記録を基に本を決め、必要な情報を整理して、本の魅力が伝わるように紹介する。 ・読書会の場合は、クラスやグループごとに課題本を決め、各自で読んで感想などをメモしておく。その後、話し合いたいテーマなどを決めて、読書会を開く。 ・読書記録の場合は、記録のしかたを確認する。 4 ポップ、読書会のメモや記録、読書記録を提出する。 ・それぞれの活動で作成したポップやメモ、記録した読書ノートなどを夏休み明けに提出する。 ◇完成物は、教室や学校図書館に展示するとよい。 ◇次の教材「本の中の中学生」と併せて指導することも考えられる。 →P86「本の中の中学生」 →P196「研究の現場にようこそ」 →P90、202「本の世界を広げよう」	【知・技】読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。（(3)オ） →さまざまな読書の楽しみ方について理解し、読書が知識を得たり、新しいものの見方や考え方を知ったり、自分の考えを広げたりすることに役立っていることを理解している。 【態】読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを進んで理解し、今までの学習を生かして本の魅力や感想を伝え合おうとしている。
7月	**本の中の中学生** **あと少し、もう少し** **西の魔女が死んだ** **読書案内　本の世界を広げよう** **コラム　本との出会い** **１時間** ◎読書が、知識や情報を得たり、	1	リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1「本の中の中学生」の作品を読む。 ・考えていることや悩んでいることが似ている登場人物、友達になれそうな登場人物はいないか、探しながら読む。 2 気に入った作品とその理由を友達と共有する。	【知・技】読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。（(3)オ） →読書が、知識を得たり、新しいものの見方や考え方を知ったり、自分の考えを広げたりすることに役立っていることを理解している。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解することができる。(知・技(3)オ) ◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができる。(思・判・表C(1)オ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★学校図書館などを利用し、多様な情報を得て、考えたことなどを報告したり資料にまとめたりする。(思・判・表C(2)ウ)		◇学校図書館や地域の図書館に行って続きを読んだり、同じ作者が書いた別の作品や、他の作家が書いた同じテーマの本を読んだりするなど、実際に本を手に取るように促すとよい。 3 P90「本の世界を広げよう」を参考に、今後読みたい本を考える。 ◇P93「コラム　本との出会い」を参考に、夏休みの課題として、「本の中の中学生」等のテーマを設定して、推薦文を書かせてもよい。書いた推薦文は、展示したり、それを基にスピーチをしたりして、友達と交流させることもできる。 →P92「私の一冊」 →P93「本との出会い」 →P284資「読書感想文の書き方」 →P286資「文章の推敲・原稿用紙の使い方」 →P290資「幻の魚は生きていた」 →P294資「坊っちゃん」 ◇前の教材「読書を楽しむ」と併せて指導することも考えられる。	【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしている。(C(1)オ) →文章を読み、理解したことを基に、自分の考えを形成している。 【態】進んで文章を読み、理解したことに基づき、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。
7月	**季節のしおり　夏** ・事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)ウ) ・言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	－	・夏の植物や動物にまつわる言葉や、夏の情景を詠んだ詩や俳句を味わい、伝統的な言語文化に親しむ。 ◇P62「空の詩 三編」、P228「構成や描写を工夫して書こう」などの資料として用いてもよい。 ◇夏をテーマにした他の詩歌を探し、交流することもできる。	【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)ウ) →作品中の「夏」を感じさせる言葉に着目し、情景を想像している。 【態】伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
4　心の動き				
9月	**大人になれなかった弟たちに……** **４時間** ◎読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解することができる。(知・技(3)オ) ◎場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えることができる。(思・判・表C(1)イ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 (学びに向かう力、人間性等) ★物語を読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	1-2

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
		5	→二次元コード「学びの地図」 ・「雪が降るように」のような比喩表現を探し、どんな情景や気持ちを表しているか考える。 →P115言の葉 →P68「言葉３　さまざまな表現技法」 4 印象に残った場面や描写を語り合う。(課題3) ・解釈を基に、印象に残った箇所とその理由をグループで述べ合う。 5 学習を振り返る。 ・場面や描写の結び付きを図を用いて整理することには、どんな効果があったか、自分の言葉でまとめる。 ・複数の場面や描写を結び付けて読むと、どんなことが見えてきたか、自分の言葉でまとめる。 ・読み取ったことを踏まえ、この後、作品がどう続いていくかを考えて、簡潔に書く。	
9月	**項目を立てて書こう** **案内文を書く** **３時間** ◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使うことができる。(知・技(2)イ) ◎目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ◎書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えることができる。(思・判・表B(1)イ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 (学びに向かう力、人間性等) ★行事の案内や報告の文章を書くなど、伝えるべきことを整理して書く。(思・判・表B(2)イ)	1-2 3	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 ◇授業の導入として、「書くことのミニレッスン」に取り組ませるとよい。 →二次元コード「書くことのミニレッスン」 1 情報を整理し、構成を考える。 ・案内する事柄を決め、相手の立場に立って、伝える必要がある情報を考える。 ・身の回りの案内文なども参考に、項目を立てて情報を整理し、構成を考える。 →P116カギ「必要な情報を明確に伝える」 →P280資「『学びのカギ』一覧」(書く) →二次元コード「学びの地図」 →P288資「手紙の書き方」 2 案内文を書く。 ・P117「案内文の例（地域の人に)」を参考に、案内文を書く。 ◇必要な情報が明確に伝わるように、事柄・目的・相手に合わせて情報を整理し、項目の分類や順序を工夫させる。 →P118「読み手の立場に立つ」 →P341資「ICT活用のヒント」 3 学習を振り返る。 ・互いの案内文を読み合い、意見や感想、工夫されていると思った点を伝え合う。	【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。((2)イ) →情報を項目ごとに整理することを理解し、案内文の作成に生かしている。 【思・判・表】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) →伝えたい事柄・相手に応じて、必要な情報が明確に伝わるように、項目ごとに整理している。 ・「書くこと」において、書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えている。(B(1)イ) →相手が必要とする情報を明確に伝えるために、案内文の構成を考えている。 【態】必要な情報を積極的に集めて整理し、学習の見通しをもって案内文を書こうとしている。
9月	**［推敲］読み手の立場に立つ** **１時間** ◎事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)ウ) ◎読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述のしかたなどを確かめて、文章を整えることができる。(思・判・表B(1)エ)	1	リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 読み手の立場に立って、案内文を推敲する。 ・P117「案内文の例（地域の人に)」を参考に、P118の地域の人に出す体育祭の案内文の下書きを下段1・2の指示に沿って書き改める。 →二次元コード「書くことのミニレッスン」 →P286資「文章の推敲・原稿用紙の使い方」 2 書き換えた案内文について、伝えようとする内容が正確に、わかりやすく書き表されているか、友達と話し合う。 ◇推敲した文章を互いに比較させながら進めるとよい。 3 学習を振り返る。	【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)ウ) →正確でわかりやすい表現に書き改めている。 【思・判・表】「書くこと」において、読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述のしかたなどを確かめて、文章を整えている。(B(1)エ) →読み手の立場に立って、誤記はないか、表現は適切か、伝える情報が正確にわかりやすく書けているかな

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 （学びに向かう力、人間性等） ★行事の案内を書くなど、伝えるべきことを整理して書く。 （思・判・表B(2)イ）		・案内文の推敲で、どんなことが大切かまとめる。	どを検討している。 【態】粘り強く文章を推敲し、今までの学習を生かして案内文を書き改めようとしている。
9月	**言葉４　方言と共通語** **１時間** ◎共通語と方言の果たす役割について理解することができる。（知・技(3)ウ） ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 (学びに向かう力、人間性等)	1	1 導入の課題に取り組み、地域による言葉の違いについて関心をもつ。 2 教材文を読み、方言と共通語の違いを理解する。 ・語句・表現・文末表現・発音の違いを知る。 →二次元コード「方言による発音の違い」 ・共通語の必要性を知る。 3 P120「消滅危機言語」を読み、日本における消滅危機言語について知る。 ◇自分たちの住んでいる地域の言葉でしか表現できない事柄はないか、家族や地域の人に尋ねさせてもよい。 →二次元コード「漢字の練習」	【知・技】共通語と方言の果たす役割について理解している。((3)ウ) →共通語と方言の役割や特徴について理解している。 【態】今までの学習を生かして、積極的に共通語と方言の果たす役割について理解しようとしている。
10月	**聞き上手になろう** **質問で話を引き出す** **２時間** ◎音声の働きや仕組みについて、理解を深めることができる。（知・技(1)ア） ◎必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめることができる。（思・判・表A(1)エ） ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 （学びに向かう力、人間性等） ★紹介や報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問したり意見などを述べたりする。（思・判・表A(2)ア）	1

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。 （知・技(1)イ） ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 （学びに向かう力、人間性等）		→P321資「一年生で学習した音訓」 ◇言葉の意味がわからないときは、国語辞典等で調べさせるとよい。 4 P126「漢字に親しもう２」の問題に取り組む。 →二次元コード「漢字一覧表」 →P19「言葉を調べる（漢和辞典）」 →P260「小学校六年生で学習した漢字一覧」 →P308資「一年生で学習した漢字」 →P321資「一年生で学習した音訓」 ◇言葉の意味がわからないときは、国語辞典等で調べさせるとよい。 ◇P257「［練習］小学校六年生で学習した漢字」に併せて取り組み、これまでに学習した漢字の書き取りをさせてもよい。	を正しく読んだり、同じ熟語の音・訓の読み方を使って短い文を作ったりしている。 【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
５　筋道を立てて				
10月	**「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ** **５時間** ◎原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア） ◎文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができる。（思・判・表C(1)エ） ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 （学びに向かう力、人間性等） ★記録の文章を読み、理解したことや考えたことを報告したり文章にまとめたりする。 （思・判・表C(2)ア）	1

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
			・この文章で示された事実は、筆者の意見とどのような関係にあるか、自分の言葉でまとめる。 ・この文章の構成や展開には、どんな効果があったか、「○○を根拠とすることで」という言葉を使って述べる。 ・仮説を検証する形で自分の意見を述べることの効果を挙げる。	
10月	**思考のレッスン１** **意見と根拠** **１時間** ◎原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1	1 P138上段の文章を読み、意見の根拠を明確に示すことの大切さを理解する。 2 適切な根拠について考える。 ・P138中段①②③について、適切な根拠が示されていると思うか考える。 ・適切な根拠について話し合う。 ・問題1に取り組み、適切な根拠が示されているか、またなぜそう考えたかを答える。 3 意見と根拠の結び付きを考える。 ・P139中段の二つの意見について、根拠と結び付ける理由づけを確認する。 ・問題2に取り組み、理由づけを考える。 4 学習を振り返る。 ・意見を聞いたり、伝えたりするときのポイントを確認する。 →二次元コード「漢字の練習」	【知・技】原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) →適切な根拠や、意見と根拠の結び付きについて理解している。 【態】根拠の客観性や理由づけに無理がないかを積極的に検討し、学習課題に沿って、意見と根拠の関係について理解を深めようとしている。
10月	**根拠を明確にして書こう** **資料を引用して報告する** **５時間** ◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使うことができる。(知・技(2)イ) ◎根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ◎根拠の明確さなどについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすことができる。(思・判・表B(1)オ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★本や資料から文章や図表などを引用して説明したり記録したりするなど、事実やそれを基に考えたことを書く。(思・判・表B(2)ア)	1

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
			→P78「情報収集の達人になろう」 →P141カギ「根拠を明確にして書く」 →P280資「『学びのカギ』一覧」（書く） →二次元コード「学びの地図」 →P143言の葉 ◇P144「統計資料の例」にある資料を使ってまとめさせてもよい。 ◇P142の文例を参考に、レポートの完成イメージをもたせるとよい。 ◇引用のしかたや出典の示し方を確認させる。 →P143「達人からのひと言」 4 レポートを読み合い、交流する。 ・友達とレポートを読み合い、資料を適切に引用できているかなどについて、伝え合う。 ◇タブレットのコメント機能などを使って交流するとよい。 →P341資「ICT活用のヒント」 5 学習を振り返る。 ・どのようなことに注意して、資料を引用したか、自分の言葉でまとめる。 ・根拠を明確にして自分の考えが伝わる文章を書くために、どんなことに注意したか、自分の言葉でまとめる。 ・説明や報告の文章を読むときに、引用のしかたに注意することで、どのようなよいことがあるか考える。 ◇P140「生かす」を読み、学んだことを今後どのように生かしていきたいかを考えさせるとよい。	
11月	**漢字に親しもう３** **１時間** ◎学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)イ） ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等）	1	1 新出漢字を確認する。 →二次元コード「漢字一覧表」 2 練習問題に取り組む。 →P19「言葉を調べる（漢和辞典）」 →P260「小学校六年生で学習した漢字一覧」 →P308資「一年生で学習した漢字」 →P321資「一年生で学習した音訓」 ◇言葉の意味がわからないときは、国語辞典等で調べさせるとよい。 ◇P257「［練習］小学校六年生で学習した漢字」に併せて取り組み、これまでに学習した漢字の書き取りをさせてもよい。	【知・技】学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。（(1)イ） →小学校で学習した漢字を使って文章を作ったり、中学校で学習する漢字の読み方について理解したりしている。 【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
11月	**文法への扉２** **言葉の関係を考えよう** **文法２　文の組み立て** **２時間** ◎単語の類別について理解することができる。（知・技(1)エ） ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等）	1-2	1 P147の導入や教材文を読み、言葉の関係について考える。 ・わかりやすく伝えるためには文節どうしの関係を理解する必要があることに気づく。 →二次元コード「文法ワーク」 2 P246「文法２　文の組み立て」を読み、「文節どうしの関係」「連文節」「文の成分」「文の組み立て」を理解する。 →二次元コード「練習問題」 ・下段の練習問題に取り組み、理解したことを確認する。	【知・技】単語の類別について理解している。（(1)エ） →「文節どうしの関係」「連文節」「文の成分」「文の組み立て」について、理解を深めている。 【態】今までの学習を生かして、積極的に単語の類別の前提となる文の組み立てについて理解しようとしている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
			・P250「書くことに生かす」を読み、文章の推敲に生かせることを知る。	
11月	**聴きひたる　大阿蘇** **１時間** ◎事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)ウ） ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 （学びに向かう力、人間性等）	1	リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 朗読音声を聴き、言葉の響きやリズムを味わう。 →二次元コード「朗読音声」 ・繰り返しの表現や、繰り返しながら変化していく表現などに注目する。 ・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」 ◇阿蘇の風景を動画や静止画などで見せるとよい。 2 詩の朗読を聞いて感じたことや考えたことを交流する。	【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。（(1)ウ） →詩の朗読を聞いて、それぞれの言葉がどのように使われているかを考えている。 【態】進んで言葉の響きやリズムを味わい、語感を磨きながら、今までの学習を生かして詩を味わおうとしている。
11月	**季節のしおり　秋** ・事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)ウ） ・言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 （学びに向かう力、人間性等）	－	・秋の植物や動物にまつわる言葉や、秋の情景を詠んだ詩や和歌、俳句を味わい、伝統的な言語文化に親しむ。 ◇P62「空の詩　三編」、P228「構成や描写を工夫して書こう」などの資料として用いてもよい。 ◇秋をテーマにした他の詩歌を探し、交流させることもできる。	【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語感を磨き語彙を豊かにしている。（(1)ウ） →作品中の「秋」を感じさせる言葉に着目し、情景を想像している。 【態】伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。
６　いにしえの心にふれる				
11月	**古典の世界** **音読を楽しむ　いろは歌** **１時間** ◎古典にはさまざまな種類の作品があることを知ることができる。（知・技(3)イ） ◎音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむことができる。（知・技(3)ア） ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 （学びに向かう力、人間性等）	1	1 P152「古典の世界」を読み、3年間の古典学習について見通しをもつ。 ・和歌や物語、随筆、漢文・漢詩など、3年間でさまざまな古典作品に触れることを知る。 2 P154「いろは歌」を音読する。 ・リズムを味わいながら繰り返し音読する。 →二次元コード「『いろは歌』朗読音声」 ・三段目の現代語訳と関連づけながら読む。 ◇七五調の「今様」であることに触れるのもよい。	【知・技】 ・古典にはさまざまな種類の作品があることを知っている。（(3)イ） →小学校から親しんできた古典の作品を思い起こし、古典にはさまざまな種類の作品があることを理解している。 ・音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。（(3)ア） →言葉の調子や間の取り方などを意識して音読している。 【態】古文を積極的に、繰り返し音読し、3年間の学習の見通しをもって、古典の世界に親しもうとしている。
11月	**蓬莱の玉の枝** **――「竹取物語」から** **４時間** ◎音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむことができる。（知・技(3)ア） ◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確か	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 古典の文章を音読し、現代の文章との違いを確かめる。 ・古典の文章を、リズムを味わいながら繰り返し音読する。（課題1-①） →二次元コード「『竹取物語』朗読音声」 ・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」 ◇小学校の高学年で、「竹取物語」冒頭部分は既に	【知・技】音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。（(3)ア） →音読に必要な文語のきまりや、古典特有のリズムを確かめながら音読し、古典の世界に親しんでいる。 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	なものにすることができる。 （思・判・表C(1)オ） ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 （学びに向かう力、人間性等） ★古文を読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする。（思・判・表C(2)イ）	2 3-4	学習していることを踏まえる。 2 現代語訳やP169「古典の言葉」を参考に、現代の文章との違いを確かめる。（課題1-②） ・仮名遣いが違う部分の読み方を確かめる。 ・文末の言葉の違いを確かめる。 ・現代とは違う意味で使われている言葉や、現代では使われなくなった言葉の意味を確かめる。 →P169「古典の言葉」 3 作品の内容を読み取り、古典の世界を想像する。（課題2） ・「蓬萊の玉の枝」に登場する人々の思いや行動について考え、現代の人々に通じるところはないか、友達と語り合う。 ◇P166「貴公子たちの失敗談」は、内容にちなんだ言葉遊びで締めくくられている。現代でも、言葉遊びが社会のさまざまなところで使われていることに気づかせるとよい（例:商品名など）。 ◇「竹取物語」はさまざまな形で表現されている（P165）。それぞれどのような魅力がより強く伝わるかを考えさせることもできる。 4 学習を振り返る。 ・現代の文章と古典とを比べ、どんな違いに気がついたか挙げる。 ・特に印象に残った人物や場面はどこか、自分の言葉でまとめる。 ・古典の物語を読んで、興味をもったことや、もっと知りたいことを、友達と伝え合う。	(C(1)オ) →文章を読み、登場人物の思いや行動、現代との共通点や相違点について考えを深めている。 【態】進んで古文を音読し、今までの学習を生かして、描かれている古典の世界を想像しようとしている。
11月	**今に生きる言葉** **[書く]故事成語を使って体験文を書こう** **３時間（読②書①）** ◎音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむことができる。(知・技(3)ア) ◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができる。 （思・判・表C(1)オ） ◎書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えることができる。（思・判・表B(1)イ） ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 （学びに向かう力、人間性等） ★漢文を読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする。（思・判・表C(2)イ） ★本や資料から文章を引用して説明するなど、事実やそれを基に考えたことを書く。（思・	1-2

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	判・表B(2)ア)		げる。 ・挙げられている故事成語は、日常生活の中でどのように使われているか考え、自分の言葉でまとめる。 ・故事成語の中で、興味をもったものや日常生活で使ってみたいものを挙げる。	
7　価値を見いだす				
11月	**「不便」の価値を見つめ直す** **[書く]筆者の主張に対する自分の意見を書こう** **４時間（読③書①）** ◎原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使うことができる。(知・技(2)イ) ◎目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈することができる。(思・判・表C(1)ウ) ◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができる。(思・判・表C(1)オ) ◎根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★説明の文章を読み、理解したことや考えたことを報告したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア) ★本や資料から文章や図表などを引用して説明したり記録したりするなど、事実やそれを基に考えたことを書く。(思・判・表B(2)ア)	1

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	◎原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)		◇例文に線を引かせる。教科書の類題を準備し、練習させ定着させるとよい。 2 P187の例題や問題2から、原因と結果のつながりに無理がある例を確かめ、パターン別に整理する。 ・「全くの偶然」「逆の因果関係」「疑似相関」について、筋道の上での問題点を指摘する。 ◇「全くの偶然」である理由や、「原因と結果が逆」である理由を説明させたり、「隠された別の原因」は何かを指摘させたりするとよい。 3 学習を振り返る。 ・話の筋道を理解したり、筋道を立てて書いたり話したりする際には、原因と結果の関係に気をつけることが大切だということを確認する。	→原因と結果がどうつながっているか整理し、その関係について理解している。 【態】今までの学習を生かして、積極的に原因と結果の関係について理解しようとしている。
12月	**漢字に親しもう４** **１時間** ◎学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)イ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1	1 新出漢字を確認する。 →二次元コード「漢字一覧表」 2 練習問題に取り組む。 →P19「言葉を調べる（漢和辞典)」 →P260「小学校六年生で学習した漢字一覧」 →P308資「一年生で学習した漢字」 →P321資「一年生で学習した音訓」 ◇言葉の意味がわからないときは、国語辞典等で調べさせるとよい。 ◇P257「[練習] 小学校六年生で学習した漢字」に併せて取り組み、これまでに学習した漢字の書き取りをさせてもよい。	【知・技】学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)イ) →小学校で学習した漢字を使って文章を作ったり、中学校で学習する漢字の読み方について理解したりしている。 【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
12月	**[話し合い（進行)]** **進め方について考えよう** **１時間** ◎意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめることができる。(思・判・表A(1)オ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★互いの考えを伝えるなどして、少人数で話し合う。(思・判・表A(2)イ)	1	リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 二次元コードの動画を視聴し、「やってみよう」①②に取り組む。 →二次元コード「話し合いの様子」 2 P190「よりよい話し合いにするために」を読み、話し合うときに効果的な工夫について理解する。 →P272「語彙ブック」(思考するときの言葉) 3 学習を振り返る。 ・話し合いをよりよく進めるために、どのようなことに気をつければよいか、自分の言葉でまとめる。	【知・技】意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) →根拠を述べたり、前の人の意見を受けたりして話すことを理解している。 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめている。(A(1)オ) →動画を視聴し、話題や展開を捉えながら話し合うための工夫について、自分の考えをまとめている。 【態】進んで話題や展開を捉え、学習課題に沿って、話し合いをよりよく進めるために気をつけることについて、考えをまとめようとしている。
12月	**季節のしおり　冬** ・事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)ウ) ・言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国	－	・冬の植物や動物にまつわる言葉や、冬の情景を詠んだ詩や短歌を味わい、伝統的な言語文化に親しむ。 ◇P62「空の詩 三編」、P228「構成や描写を工夫して書こう」などの資料として用いてもよい。 ◇冬をテーマにした他の詩歌を探し、交流することもできる。	【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)ウ) →作品中の「冬」を感じさせる言葉に着目し、情景を想像している。 【態】伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 （学びに向かう力、人間性等）			言語文化を大切にしようとしている。
12月	**話題や展開を捉えて話し合おう** **グループで語り合い、ものの見方を広げる** **４時間** ◎意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア） ◎話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめることができる。（思・判・表A(1)オ） ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 （学びに向かう力、人間性等） ★互いの考えを伝えるなどして、少人数で話し合う。（思・判・表A(2)イ）	1

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	もに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 （学びに向かう力、人間性等） ★学校図書館などを利用し、多様な情報を得て、考えたことなどを報告したり資料にまとめたりする。（思・判・表C(2)ウ）		◇読書の意義を理解させる活動である。読書案内と、学校図書館の蔵書をリンクさせるなどして、読書が知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを実感させたい。 3 P202「本の世界を広げよう」を参考に、今後読みたい本を考える。 →P90「本の世界を広げよう」 →P290資「幻の魚は生きていた」 →P294資「坊っちゃん」 →P284資「読書感想文の書き方」 ◇P202の二次元コードで、他の研究者のインタビュー記事を読めることを伝え、読書を促すとよい。 →二次元コード「研究の現場にようこそ」	とを積極的に理解し、今までの学習を生かして考えたことを伝え合おうとしている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
8　自分を見つめる				
1月	**少年の日の思い出** **[書く]別の人物の視点から文章を書き換えよう** **漢字に親しもう５** **７時間（読⑤書②）** ◎事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)ウ） ◎文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。（思・判・表C(1)エ） ◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができる。（思・判・表C(1)オ） ◎根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等） ★小説を読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする。（思・判・表C(2)イ） ★小説を書き換えるなど、感じたことや考えたことを書く。（思・判・表B(2)ウ）	1

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
1月	**文法への扉３** **単語の性質を見つけよう** **文法３　単語の分類** **２時間** ◎単語の類別について理解することができる。(知・技(1)エ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 (学びに向かう力、人間性等)	1-2	1 P223の例題に取り組み、単語の性質について考える。 ・単語を組み合わせる過程で、性質の違いに気づき、それによって分類できることを理解する。 →二次元コード「文法ワーク」 2 P251「文法３　単語の分類」を読み、「自立語・付属語」・「活用の有無」、「品詞」、「体言と用言」について理解する。 →二次元コード「練習問題」 ・下段の練習問題に取り組み、理解したことを確認する。 ◇必要に応じて、P255-256の活用表を用いて理解を深めさせるとよい。	【知・技】単語の類別について理解している。((1)エ) →「単語の分類」「品詞」「体言と用言」について、理解を深めている。 【態】今までの学習を生かして、積極的に単語の類別について理解しようとしている。
1月	**二十歳になった日** **４時間** ◎事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)ウ) ◎文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。(思・判・表C(1)エ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 (学びに向かう力、人間性等) ★随筆を読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	1 2 3 4	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 作品を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」 2 随筆の内容を捉える。(課題1) ・心情を表す語句や表現などに着目し、筆者が「二十歳になった日」に感じたことを挙げる。 3 構成や表現の効果について考える。 ・構成で工夫されていると思う点を話し合う。(課題2-①) ・筆者の思いや考えが伝わる表現について、「どう書かれているか」に着目して表現の効果を考える。(課題2-②) →P227カギ「表現の効果を考える」 →P276資「『学びのカギ』一覧」(文学) →二次元コード「学びの地図」 4 自分が考える表現の効果について語り合う。(課題3) ・自分が注目した表現とその効果について、考えたことをグループで語り合う。 ◇P228「構成や描写を工夫して書こう」の前段階の学習であることを踏まえて指導するとよい。 5 学習を振り返る。 ・特に印象に残った語句や表現を挙げる。 ・構成や表現の効果に着目することで、随筆のどんな特徴に気づいたか、自分の言葉でまとめる。 ・随筆を書くときに生かしたいことを挙げる。	【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)ウ) →心情を表す語句や表現に着目し、感じたことを言語化している。 【思・判・表】「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。(C(1)エ) →本文中の具体的な記述を挙げながら、構成の工夫や表現の効果について考えている。 【態】進んで心情を表す表現とその効果について考え、学習したことを生かして筆者のものの見方を捉え、随筆を読み味わおうとしている。
2月	**構成や描写を工夫して書こう** **体験を基に随筆を書く** **５時間** ◎事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)ウ) ◎書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えることができる。(思・判・表B(1)イ)	1

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	◎根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。 （思・判・表B(1)ウ） ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 （学びに向かう力、人間性等） ★随筆など、感じたことや考えたことを書く。(思・判・表B(2)ウ)	3

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	しかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使うことができる。(知・技(2)イ) ◎相手の反応を踏まえながら、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫することができる。(思・判・表A(1)ウ) ◎目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 (学びに向かう力、人間性等) ★紹介や報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問したり意見などを述べたりする。(思・判・表A(2)ア) ★本や資料から文章や図表などを引用して説明したり記録したりするなど、事実やそれを基に考えたことを書く。(思・判・表B(2)ア)	2 3 4	決める。 ・教科書やノートなどを読み返し、情報を集める。 →P235カギ「一年間の学びを振り返る」 →P280資「『学びのカギ』一覧」(話す・聞く、書く) →二次元コード「学びの地図」 2 情報を整理し、発表内容を決める。 ・集めた情報を分類したり、比較したりして整理し、発表する内容を決める。 ◇カードに書き出し、それらをテーマごとに分類するなどして、発表内容を考えさせるとよい。 →P52「情報整理のレッスン 比較・分類」 →P54「情報を整理して説明しよう」 3 発表用資料を作る。 ・話す内容を決め、構成を考える。 ・スライドやフリップに要点をまとめる。 ◇タブレットなどを活用し、資料を作成してもよい。 →P341資「ICT活用のヒント」 →P236言の葉 4 グループの中で発表する。 ・スライドやフリップを使って発表し(各3分)、質疑応答を行う(各3分)。 ・発表の内容や話し方などについて、感想や意見を伝え合う。 5 学習を振り返る。 ・どのような方法で、集めた情報を整理したか、自分の言葉でまとめる。 ・伝えたいことを明確にするために、どのような点を工夫したか、挙げる。 ・相手の反応を踏まえて話すときに、どのような点に気をつけたか、自分の言葉でまとめる。 ・1年間の学習を振り返って気づいたことの中で、2年生の学習でも生かしていきたいことを挙げる。 ◇P234「生かす」を読み、学んだことを今後どのように生かしていきたいかを考えさせるとよい。	わかりやすく資料にまとめている。 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、相手の反応を踏まえながら、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫している。(A(1)ウ) →聞き手の反応を踏まえて、考えがわかりやすく伝わるように、用いる言葉を工夫して話している。 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) →「観点」に見合った情報を集めて整理し、発表の要点を資料に書いている。 【態】集めた材料を積極的に整理し、今までの学習を生かして要点を資料にまとめ、発表しようとしている。
3月	ぼくが　ここに ２時間 ◎比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使うことができる。(知・技(1)オ) ◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができる。 (思・判・表C(1)オ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 (学びに向かう力、人間性等) ★詩を読み、考えたことなどを伝え合う。(思・判・表C(2)イ)	1 2	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 詩を読み、印象に残った表現を発表する。(課題1) ・詩の中で印象に残った言葉や表現を抜き出し、理由とともに発表する。 ◇平易な言葉で書かれた短い詩であるため、印象に残った表現を挙げられない生徒が多い場合は、あまり時間をかけずに課題2へと授業を展開するとよい。 2 表現の意味や、表現技法について考える。 ・提示された二つの表現がどういうことを表しているかを考える。(課題2-①) ・詩に使われている表現技法や表記・表現のしかたの特徴を挙げて、その効果について話し合う。(課題2-②) →P68「言葉３　さまざまな表現方法」 3 作者の思いについて語り合う。(課題3) ・読み深めたことを基に作者の思いを想像し、考えたことを語り合う。	【知・技】比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使っている。 ((1)オ) →詩に用いられている表現の技法を理解している。 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしている。 (C(1)オ) →表現や表現技法に着目して読み深めたことを基に、作者の思いを想像し、考えている。 【態】積極的に詩を読み味わって考えを深め、学習課題に沿って、考えたことを伝え合おうとしている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
			4 学習を振り返る。 ・特に効果的だと思った表現技法を挙げる。 ・特に想像を広げることができたのは、詩の中のどの部分か挙げる。 ・交流を通して詩の印象はどのように変化したか、簡単に整理する。	
学びを深める				
3月	**国語の力試し** **３時間（読①話聞①書①）** ◎比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使うことができる。(知・技(1)オ) ◎音読に必要な文語のきまりを知り、古典の世界に親しむことができる。(知・技(3)ア) ◎文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握することができる。(思・判・表C(1)ア) ◎表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。(思・判・表C(1)エ) ◎話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめることができる。(思・判・表A(1)オ) ◎目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ◎読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述のしかたなどを確かめて、文章を整えることができる。(思・判・表B(1)エ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★説明の文章を読み、理解したことや考えたことを報告したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア) ★互いの考えを伝えるなどして、少人数で話し合う。(思・判・表A(2)イ) ★行事の案内や報告の文章を書くなど、伝えるべきことを整理して書く。(思・判・表B(2)イ)	1